

会 議 録

1 会議名

令和4年度第9回牧区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項（公開）

- (1) 「新市建設計画の変更について」の答申に対する回答について
- (2) 牧湯の里深山荘の今冬の営業について
- (3) 学校の適正配置の進捗状況について

○自主的審議事項（公開）

- (1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」について

3 開催日時

令和4年12月20日（火）午後6時00分から午後8時10分まで

4 開催場所

牧区総合事務所3階 301会議室

5 傍聴人の数

2人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委員：西山新平（会長）、飯田秀治（副会長）、池田幸弘、井上光廣、折笠忠一、坂井雅子、佐藤祐子、清水薫、高澤富士雄、横尾哲郎
- ・事務局：牧区総合事務所 山岸所長、佐々木グループ長、藤井班長、田中主事
（以下、グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【佐々木グループ長】

- ・会議の開会を宣言。
- ・上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告。

【西山会長】

- ・挨拶。
- ・所長に挨拶を求める。

【山岸所長】

- ・挨拶。

【西山会長】

- ・会議録の確認：横尾委員に依頼。
- ・本日の報告事項である、(1)「新市建設計画の変更について」の答申に対する回答について、事務局より説明を求める。

【田中主事】

—資料No. 1に基づき説明—

【西山会長】

- ・今程説明のあった件について、質問や意見等はないか。

(質問、意見等なし)

【西山会長】

- ・質問、意見等がなかったため、一つ目の報告事項を終了する。続いて、(2)牧湯の里深山荘の今冬の営業について、事務局より説明を求める。

【山岸所長】

—資料No. 2に基づき説明—

【西山会長】

- ・今程説明のあった件について、質問や意見等はないか。

(質問、意見等なし)

【西山会長】

- ・質問、意見等がなかったため、二つ目の報告事項を終了する。続いて、(3)学校の適正配置の進捗状況について、事務局より説明を求める。

【佐々木グループ長】

—牧小中学校の今後の学びの在り方に関するアンケート結果に基づき説明—

- ・本日配布した「牧小中学校の今後の学びの在り方に関するアンケート結果のまとめ」について報告させていただく。資料については、1 ページ右上に記載のとおり、取り扱い

注意となっていることから、委員様限りの資料としてご覧いただきたい。10月18日開催の第8回牧区地域協議会において説明させていただいた保護者アンケートの結果がまとまったことから報告するものである。

- まず、アンケートの概要である。こちらのアンケートは、牧小中学校の保護者並びに牧区に在住する未就学児の保護者49人を対象に実施した。10月21日付けで、郵送により各世帯へ無記名によるアンケート用紙を配布するとともに、アンケートの回収率を向上させるため、QRコードによるスマートフォンでの回答も可能とした。11月4日を締切としたところ32人の保護者、率にして65%の回答があった。児童生徒が複数いらっしゃる方は学年ごとにカウントしているため、児童生徒の回答人数としては45人分の回答をいただいている。
- 次に、アンケートの内容である。設問は大きく分けて二つである。一つ目は、牧小中学校の在り方に関して「このままでよい」、「統合に賛成」、「どちらでもよい」から選択いただいた。二つ目は、「学校の適正配置を考えていく上で、期待することは何か」を6項目の中から一人4項目まで選択可能として回答いただいた。
- それでは、資料1ページをご覧いただきたい。まず、問2「小学校の在り方についてどのように考えるか」である。棒グラフは各学年で回答があった人数を集計している。グラフ下部が未就学児、上へ行く順に上級学年、一番上が各学年の合計値となっている。回答された45人のうち、6割の方が「統合に賛成」であり、「このままでよい」「どちらでもよい」と回答した方がそれぞれ2割となっている。1ページの下段から2ページにかけて、回答のあった内容すべてを記載しているので後程ご確認いただきたい。
- 続いて、3ページをご覧いただきたい。問3「中学校の在り方についてどのように考えるか」である。小学校の数値とほぼ同様の6割の方が「統合に賛成」となっており、「このままでよい」「どちらでもよい」と回答した方がそれぞれ2割となっている。
- 続いて、4ページをご覧いただきたい。問4「学校の適正配置を考えていく上で期待することは何か」である。①「集団の中で、多様な考え方に触れ、社会性や協調性を身につけることができる」、②「競争意識が高揚することで、児童が互いに切磋琢磨し、たくましさ等を育みやすい」、③「クラブ活動や学校行事等が活性化する」の3項目が全体の4分の3を占める結果となった。
- 5ページ以降は、自由意見の記載となっている。教育環境や統合条件など、様々な意見

が寄せられた。

- ・最後に、今後の予定について説明させていただく。12月16日の金曜日、保護者代表の方とアンケート結果及び今後の進め方について意見交換をさせていただいた。今後、1月21日の土曜日に保護者49人に声かけをして、保護者全体での意見交換会を開催する予定で進めている。16日の意見交換会でも「統合先の学校は決まっているのか」、「牧区で学校統廃合の動きがあることを近隣地区（近隣の学校）は認識しているのか」といった様々な質問をいただき、教育総務課から回答させていただいたところである。保護者全体の意見交換会については、近日中に保護者宛ての案内文書を発送する予定である。内容としては、①「アンケート結果の説明」、②「適正配置に係る牧区の現状」、③「適正配置の事例」などを説明後、小グループに分かれて意見交換を行い、今後の適正配置に係る課題や方向性などについての意識醸成を図っていく予定としている。また、関係機関や団体についても、適宜進捗状況を報告していきたいと考えている。

【西山会長】

- ・今程説明のあった件について、質問や意見等はないか。

【井上委員】

- ・とても丁寧にアンケートをとっていただいたと思う。結果を見ると、統合に賛成・反対だけではなく、現役世代の方の気持ちも分かる。これらに答えていくことは時間がかかると思われるが、結論を出す具体的な時期は決まっているのか。

【佐々木グループ長】

- ・結論を出す具体的な時期は決まっていない。現段階では、保護者代表の方と意見交換を行ったのみであり、1月21日に開催予定の保護者全体の意見交換会では、アンケートに記載されているように「急いでほしい」、「もう少しじっくり進めるべき」など様々な意見があると思われる。意見交換の中で出された意見を総合的に加味し、具体的な時期を決めていきたいというのが教育総務課の考えである。

【井上委員】

- ・アンケート結果には、様々な心配ごとや統合した際のメリットが記載されている。保護者が子どもを一番大事に思っていることから、意見交換の中でよく聞いていただきたいと思う。

【佐々木グループ長】

- ・なかには「意見交換の場をさらに設けた方が良い」という意見もあることから、スケジュールに縛られることなく、協議をしながら進めていく姿勢である。

【西山会長】

- ・他に質問、意見等はないか。

【清水委員】

- ・このようなアンケートを実施しているのは牧区が先行しているのか。あるいは、市内全体の動きなのか。

【佐々木グループ長】

- ・議会でも何度か取り上げられているが、牧区の他に大浦安や三和、柿崎、三郷で議論していると聞いている。詳細な進捗は把握していない。

【井上委員】

- ・三郷については新聞にも掲載されていた。もし情報があればお聞きしたいと思う。

【西山会長】

- ・他に質問や意見等はないか。

【飯田副会長】

- ・井上委員もおっしゃったとおり、最近はとくに学校統合について新聞等に掲載されていると感じる。一方、例えば牧区だけが先行して議論や保護者との意見交換を行っていても、他区の統合先として受け入れる、あるいは受け入れてもらう話もあると思う。市の教育委員会である程度集約しながら進めた方が良いと考えるが、そのような情報は入ってきているのか。

【佐々木グループ長】

- ・その件も保護者の方が心配されている一つである。今回、牧区内にアンケートを実施し、各々の気持ちをお聞きしたところだが、今後どうしていくかはこれからの話となる。ある程度統合する方向性に決まった場合、次のステップとして統合先を決めていきたいというのが教育委員会の考えである。そのため、近隣の学校へ統合先としての了承を得るまでは至っていない。まずは、こちらである程度まとめたうえで進めていきたい。

【山岸所長】

- ・教育委員会によれば、これまで進めてきた中では受け入れ先が断ることはまずもってないとのことである。

【飯田副会長】

- ・複式学級などの小規模校が増加している。説明にあった保護者との意見交換の場を設ける動きは他区でもあるのか。

【山岸所長】

- ・アンケートに限らず、話を進めているという意味では他にも複数ある。

【飯田副会長】

- ・全ての小規模校というわけではないのか。

【山岸所長】

- ・例えば、大浦安は牧区同様小学生が少ないが、まずは中学校から整理していく方向性だと思われる。板倉はすでに統合し、三和も現在進行中である。また、小規模校として諏訪が挙げられる。

【飯田副会長】

- ・上雲寺小学校や高士小学校、清里小学校などの話は出ていないのか。

【佐々木グループ長】

- ・教育委員会からは聞いていない。

【西山会長】

- ・他に質問、意見等がなかったため、報告事項を終了する。続いて、自主的審議事項である、(1)あらゆる人が安全・安心に住み続けたい「牧づくり」に入る。まず、本日提供された資料について、井上委員より説明を求める。

【井上委員】

—資料に基づき説明—

【西山会長】

- ・続いて、協議の進め方について、事務局より説明を求める。

【藤井班長】

—資料No. 3に基づき説明—

【西山会長】

- ・それでは、意見交換に入りたいと思う。まず、「子ども・子育て」について意見交換を

求める。

【山岸所長】

- ・3班の「空き家を活用した、子育て世帯移住お試し事業」とは、具体的にどのようなイメージなのか。

【佐々木グループ長】

- ・空き家は増加傾向にあり、放置すれば管理が大変になる。そのため、使える空き家は有効活用すべきだが、いきなり移住はなかなか難しい。まずは、牧区の様子や空き家を見てもらうために1週間程度お試しで来ていただきPRを図ることで次につなげるというねらいがある。加えて、リモートワークができる環境や牧区の農地をPRすれば魅力の発信につながる。

【山岸所長】

- ・住宅はモデルハウスのように住みやすくした状態で、一定期間移住するイメージか。

【高澤委員】

- ・リフォームしなければ、住むことができないと思われる。ただ、リフォームするにも費用がかかる。

【坂井委員】

- ・3班の「空き家を活用した、子育て世帯移住お試し事業」について、今程の説明で大まかなイメージを持つことができた。牧区は冬場が最も大変である。そのため、断熱材を活用するなどして暖かく暮らせる空き家にリフォームすることによって、冬期間でも快適に住めるモデルハウスをつくったら良いと考える。また、滞在期間について、週単位だと期間が短く、良さも悪さも分からないまま終わってしまうことも懸念される。そのため、1か月程度の期間を設けて、各季節の良さを体験してもらう企画にすれば、2班の「移住者の受け入れ体制」にもつながってくるのではないかと考える。1か月滞在してもらうことで、野菜づくりや山菜取りといった、自然の中で土と触れ合う良さなどが伝わると考える。

【山岸所長】

- ・まさに、視察研修で訪れた竹所集落のお試し移住シェアハウスのように、まずはお試しで地域を感じてもらい、最終的には定住してもらうねらいが感じ取れる。

【佐々木グループ長】

- ・3班としては、市が実際に行っている「おためし農業体験」を参考に約1週間から2週間の期間を設けてみてはと考える。気持ちとしても固いイメージではなく、「上越市の農業っていいな」、「牧区は自然が豊富なんだな」と感じてもらう程度の感覚で良いと考える。もちろん、リフォームされた完璧な状態で移住者を迎え入れれば考え方も変わってくると思うが、当然費用もかかる。

【坂井委員】

- ・事業を始めるにあたり、費用がかかったり人材が必要となるのは当たり前である。何を中心にするかを考えてから、どこへお金を費やすかを考えた方が良い。お金がないからできないのではなく、何をしたいかによって費用面を考えるべきだと思う。

【西山会長】

- ・移住に関するテレビ番組を見ていると、古民家に憧れて移住する人が多い一方、完璧にリフォームされた状態の古民家に住みたいと望む人が全てではないと感じる。旧東頸城の地域は、積雪量が多いことから資材がしっかりしている家がほとんどである。空き家バンクのようにある程度集約し、PRを図ってみてはどうかと考える。

【井上委員】

- ・ただ、学校統合の話が出ている地域に子育て世代が移住するかどうかは正直なところである。そのため、空き家と子育ては分けて考えても良いと考える。例えば、子どもが幼稚園児・保育園児の時に一時的に住んでもらい、雪の中で遊んだり野山に行くなどの経験をさせ、働き手はリモートワークをするなどであれば取り組むことができると考える。たとえ牧区を離れたとしても、暮らしや自然に触れたことを思い出して将来的に戻ってくるかもしれない。

【西山会長】

- ・次に、「産業（農業・林業）」について意見交換を求める。

【横尾委員】

- ・各班の共通意見として「メープルシロップ」が挙げられる。また、産業全体の後継者問題について、自分たちのあとの後継者をどうするかを考えた時、先行きが見えない。今後は法人の組織化や担い手の育成を産業の中心として捉えていけたら良いと考える。牧区の主要産業は農業であり、これまでつないできたものを次世代につなげていくことが重要である。

【飯田副会長】

- ・横尾委員のおっしゃるとおり、今後のことが重要だと考える。生産組織をつくったとしても後継者がいない。農業や林業に限らず、違うことにも取り組んでみたいと思っている人がたくさんいると思われる。畜産をやりたいという人もいた。何かしないと産業は衰退してしまう。

【横尾委員】

- ・「産業（農業・林業）」の後継者について取り組んだ後、「子ども・子育て」、「その他」の順番に進めることができれば整理ができて良いと考える。「子ども・子育て」について議論した際には、地域の良さをどのように伝えたらよいかを考え、「空き家を活用した、子育て世帯移住お試し事業」が挙げられた。次の世代を育てることは、決して今日、明日結論を出せるようなことではない。先日の「棚田のきらめき」では多くのボランティアの方が訪れ、作業を手伝ってくださった。また、意見交換をとおして、やはり話をしなければ地域のことやそこに住む人間の考えは伝わらないことを実感した。このようなことを地道に続け、積み重ねていくことが次世代につなげていくことになると考える。

【山岸所長】

- ・1班の組織体制の強化、2班の各農事組合法人の組合化、3班の牧農林業振興公社や法人への支援など、類似した意見が出ている。個人で農業をされている方もいるが、そこをカバーできるのが組織だと考える。どの法人も高齢化が進んでいることから、各々を助け合えるような形があれば良い。その中心には牧農林業振興公社にいてほしいという思いもある。

【横尾委員】

- ・3班でグループ討議をした際も同様の意見が出たが、牧農林業振興公社だけでは荷が重たいとのことである。横で手をつないでいけるような担い手を確保することで、牧区の産業をつなげていくことができれば良いと考える。

【清水委員】

- ・産業は二通りだと考える。一つ目は、農業を産業の主として進めることである。現状から考えると、集落法人では新たに人を雇うことが難しく、今の世代で終わってしまうことが懸念される。そのため、担い手にシフトした法人化が必要だと考える。米づ

くりだけではなく、メープルシロップや山菜取りなども含めた複合的な組織として産業化していく。二つ目は、半農半Xといった趣味の農業をPRしながら、農業体験等を充実させることである。上手く進めば、子育て世代や移住につながるかもしれない。それらの受け入れ体制を整えるために、世話人に対して助成するような仕組みをつくる必要がある。このような二通りで進めていかないと、中山間地域の農業はもたない。

【山岸所長】

- ・清水委員の意見は、1年を通じて農業に興味を持った若者の面倒をみる世話人に対し、助成するイメージか。

【清水委員】

- ・世話人は、半農半Xの趣味の農業についてである。

【坂井委員】

- ・集落法人は今後停滞していくことも考えられるが、農事組合法人を複数で組合化した方が良いという方向性か。また、そのような組織化ができた場合に中心になってもらいたいのが牧農林業振興公社というイメージか。

【清水委員】

- ・中心になるかは分からないが、牧農林業振興公社も含めて検討いただければと思う。

【坂井委員】

- ・牧農林業振興公社も含めた牧区全体で一つの農業に取り組むというイメージか。移住を希望する方に対して、法人の方々が半農半Xの受け入れや手伝いを含めて取り組んでいくことは難しいのか。

【山岸所長】

- ・組織であれば個人の農家の門をたたくよりは良いと思われる。

【坂井委員】

- ・イベントを実施する際は、組織だけに任せるのではなく牧区全体で取り組めば良い。また、法人の組織化を強化することは早急に取り組むべき課題だと考えるが、具体的にはJAの関係者と話し合っていくのか。

【清水委員】

- ・まだ話はしていないが、今後そのように進めていかなければならないと考える。

【佐々木グループ長】

- ・清水委員がおっしゃられた組合は、清里区の「星の清里協同組合」のようなものか。

【清水委員】

- ・そのとおりである。

【山岸所長】

- ・今程の意見で組織化、組合化を進めていく方向性が見えてきた。他にも、各班の意見として挙げられているメープルシロップについて、どのように考えるか。

【高澤委員】

- ・メープルシロップは現在ある樹木で採取できるが、採取時期は寒さの厳しい冬場である。

【折笠委員】

- ・意外にも、イタヤカエデは道沿いに多く自生している。そのため、工場を建設するなどして製造設備を整えれば商売になると考える。

【佐藤委員】

- ・煮詰めるための燃料、場所や時間の確保、真冬に採取することをクリアしなければ成り立たない。まずはイタヤカエデを探し、最終的に「組織化」、「品種の選別」、「製品」の三つに分業して取り組む形を整えることが必要だと考える。また、先程の農業法人の複合化についてであるが、今まで稲作だけでなく、様々なことに取り組み40年近くになる。人件費と機械代の費用が高く、仕事はあるものの利益が上がるまでにはいかない。さらに、各生産法人の成り立ちや年数、やり方が異なり、独自の路線で取り組んでいる。それらの生産法人が統合することは難しいため、将来的にはサミットのような形で連携を図り、利益を上げていくことが良い。そのようなことを牧区内全体で協議し、中心には牧農林業振興公社に担っていただきたい。

【山岸所長】

- ・例えば、各生産組合が繁忙期に行き来することで助け合えるような体制をつくることのできれば良い。質問は変わるが、3班の「根曲がり杉活用事業」はどのようなイメージなのか。

【佐々木グループ長】

- ・グループ討議において、難波委員がチェーンソーアートを挙げていた。根曲がり杉は多くあるものの住宅材には使用できないことから、曲がっている杉も活用できないか

との着想である。根曲がり杉などの素材に目をむけていくことで、他との差別化が図られると考える。

【西山会長】

- ・次に、「その他」項目について意見交換を求める。可能であれば、予約型コミュニティバスの現状を教えていただきたい。

【山岸所長】

- ・改正当初は、従前どおりの予約方法を行うなどの事例があったが、再度利用方法を周知するため、バスの運転手から利用者に対して運行方法が変わった旨を個別に説明いただいている。その後、運転手から相談等もないことから、利用方法はある程度浸透したと考える。また、要望を受けて牧診療所の前にバス停を設けた。今後は、バスの利用の幅が広がったことをもう少しPRしなければならないと考える。

【横尾委員】

- ・各班から買い物難民についての意見が見受けられる。買い物難民への対策として移動販売が挙げられているが、本来は区内の固定店舗を活用するなど、地元の活力を用いて将来につなげていく形ができれば良い。また、運転免許を返納した中山間地域の高齢者に対して支援が必要だと考える。さらに、高齢者の生きがいについて、社会福祉協議会で取り組まれている「よろばたの会」等を同年代のふれあう場としてますます充実させていただければと思う。「高齢者の外出支援拡大事業」など、直接的な事業に取り組むことで、次年度以降につなげることができれば良い。

【山岸所長】

- ・先日、農家組合長会議でも話があり、区内の一部店舗については、水曜日に定休日を1日設けたことによってコストが下がり、経営的には昨年より良くなっているとのことである。住民の方に迷惑をかけているとのことだったが、存続の方が大事であることから致し方ないと考える。

【横尾委員】

- ・セブンイレブンの移動販売は、市が依頼しているのか。

【山岸所長】

- ・地域活性化に向けて連携するという協定のもと行っている。申し入れを受けた販売先もあるし、訪問集落での利用状況によって見直しをかける場合もある。

【藤井班長】

- ・本日、全体の政策案について意見交換をさせていただいた。まず、「子ども・子育て」については、「空き家を活用した、子育て世代移住お試し事業」をもう少し深掘りして進めていけたら良いと考える。次に、「産業（農業・林業）」については、組織化に重視したこと、「その他」項目については、「高齢者の外出支援拡大事業」やJA店舗の存続が挙げられる。次回は、今回いただいた意見をまとめ、全体会で協議を進めていきたいと考える。

【西山会長】

- ・時間となったので意見交換を終了する。事務局は今回出された意見を含めて整理を行い、まとめた内容を次回地域協議会で示していただきたいと思う。続いて、その他連絡事項について、事務局より説明を求める。

【田中主事】

- ・清里区地域協議会からの意見書提出について
- ・諏訪区地域協議会からの意見書提出について
- ・板倉区地域協議会からの意見書提出について
- ・大瀨区地域協議会からの意見書提出について
- ・各区の「地域活性化の方向性」について
- ・「牧区地域協議会だより（第56号）」12月25日号発行について
- ・次回地域協議会の開催について、年間スケジュールどおり1月24日の火曜日、午後6時からとする。後日、案内文を送付するため、出欠についてご報告いただきたい。

【西山会長】

- ・今程の説明のあった件について、質問、意見等はないか。

【井上委員】

- ・小学校の漏水修繕などは、意見書としてあげられる案件なのか。

【山岸所長】

- ・本来は予算要求して判断されるところだが、地域協議会として意見をあげた方が力強いものだと考え、意見書を提出されたと思われる。

【高澤委員】

- ・旧筒方小学校の現在の所有者はどこなのか。

【山岸所長】

- ・市の所有となる。

【西山会長】

- ・意見を求めるが発言がなかったため、飯田副会長に閉会のあいさつをお願いする。

【飯田副会長】

- ・会議の閉会を宣言。

9 問合せ先

牧区総合事務所総務・地域振興グループ TEL : 025-533-5141 (内線 147)

E-mail : maki-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。